

目次

4. 保守	4-2
4.1. 環境設定	4-2
4.1.1. 端末の設定	4-4
4.1.2. ユーザーごとの設定	4-5
4.1.2.1. 伝票の設定	4-6
4.1.2.2. 見積の設定	4-7
4.1.3. 全体の設定	4-8
4.1.3.1. 利用企業の設定	4-11
4.1.3.2. コードの初期設定	4-12
4.1.3.3. 取引先の設定	4-13
4.1.3.4. 伝票の設定	4-14
4.1.3.5. メールの設定	4-16
4.1.3.6. セキュリティの設定	4-18
4.1.3.7. パスワードの設定	4-19

4. 保守

4.1. 環境設定

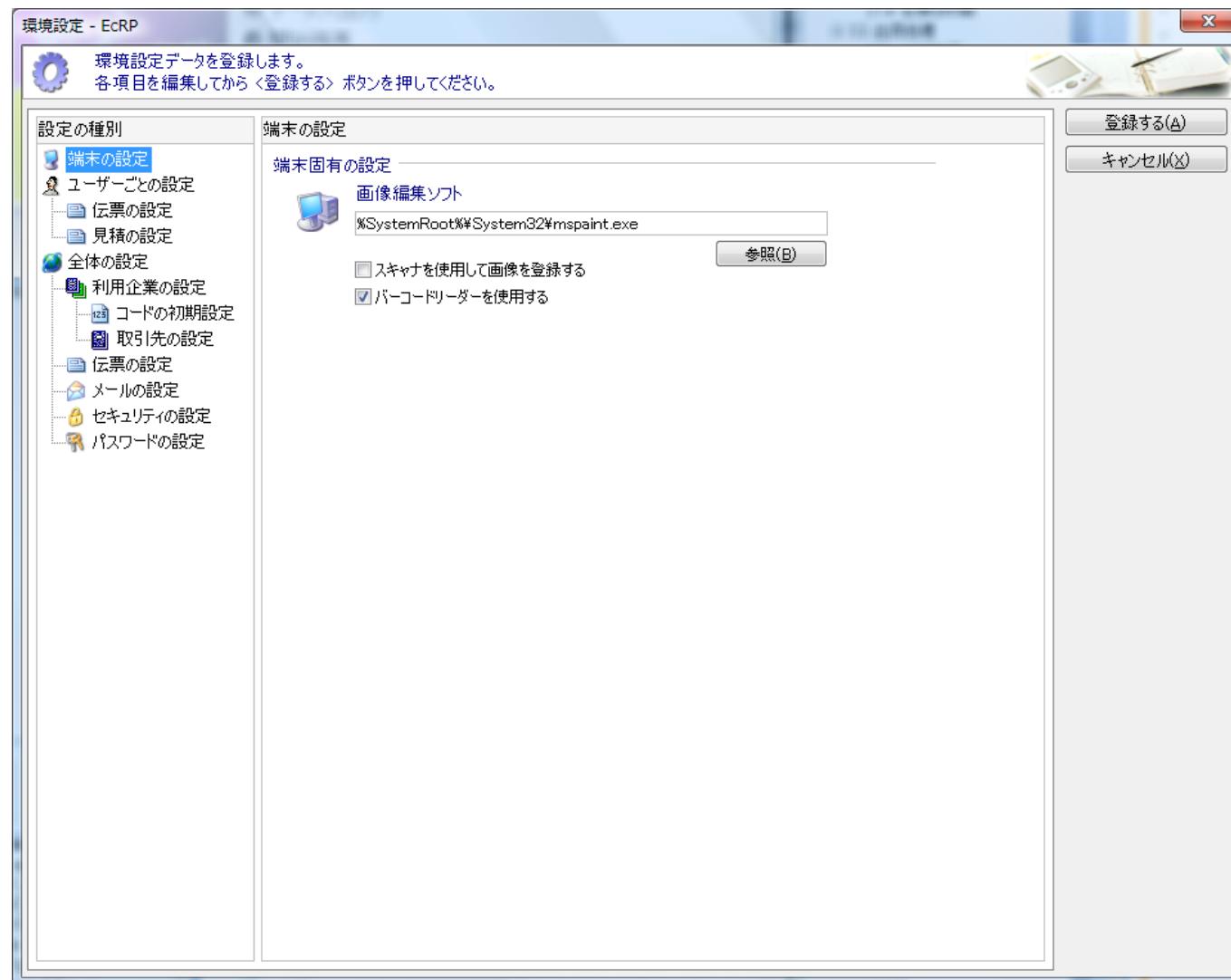


図 1 環境設定画面

- 画面の左側に設定の種別が表示されます。(全体の設定は管理者のみ表示されます)

- ・画面の右側に選択した項目の設定画面が表示されます。

<共通>

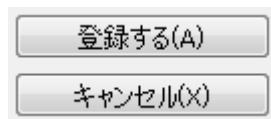


図 2 環境設定のボタン

- ① 「登録する」：画面に入力した設定内容を登録するときにクリックします。
- ② 「キャンセル」：設定内容を登録しないで終了するときにクリックします。



図 3 再起動確認

- ① 「はい」：再起動して設定内容を反映するときにクリックします。
- ② 「いいえ」：後で再起動するときにクリックします。

4.1.1. 端末の設定

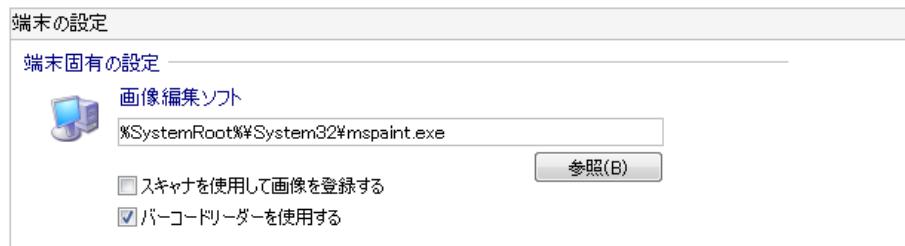


図 4 端末の設定画面

- ・ 端末の設定項目を入力します。

【項目説明】

No	項目名称	内容	値	備考	参照元
1	画像編集ソフト	画像編集ソフトのファイル名	前回の値	「参照」をクリックして、画像を編集するときに使用するソフトを設定します。	
2	スキャナを使用して画像を登録する		前回の値	パソコンに接続されているスキャナを使用するときにチェックします。	
3	バーコードリーダを使用する		前回の値	パソコンに接続されているバーコードスキャナを使用するときにチェックします。	

4.1.2. ユーザーごとの設定

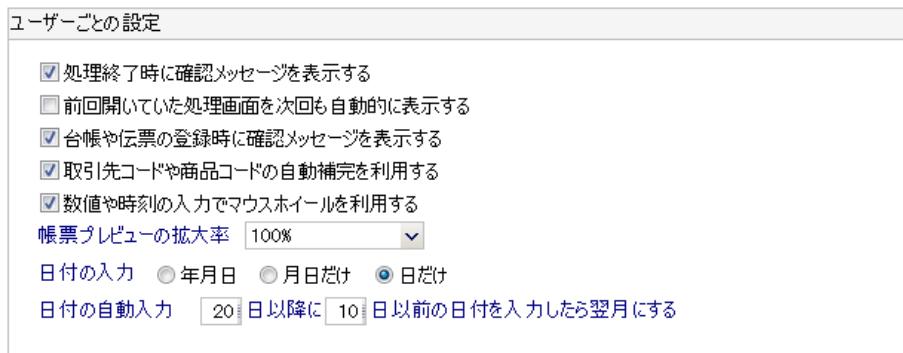


図 5 ユーザーごとの設定画面

- ユーザーごとの設定項目を入力します。

【項目説明】

No	項目名称	内容	値	備考	参照元
1	処理終了時に確認メッセージを表示する		前回の値	処理メニューの終了時、確認メッセージを表示するときにチェックします。	
2	前回開いていた処理画面を次回も自動的に表示する		前回の値	前回開いていた処理画面を次回も自動的に表示するときにチェックします。	
3	台帳や伝票の登録時に確認メッセージを表示する		前回の値	台帳や伝票の登録時、確認メッセージを表示するときにチェックします。	
4	取引先コードや商品コードの自動補完を利用する		前回の値	新しい取引先や商品を登録時、コードの自動補完を利用するときにチェックします。	
5	数値や時刻の入力でマウスのホイールを利用する		前回の値	数値や時刻の入力でマウスのホイールを利用するときにチェックします。	
6	帳票プレビュー 帳票プレビューの拡大率を選択 一の拡大率		前回の値	「100%」「ページ巾を基準」「ページ全体」の中から選択します。	

7	日付の入力	日付入力の初期状態を選択	前回の値	「年月日」「月日だけ」「日だけ」の中から選択します。
8	日付の自動	日付の自動入力ルールを入力 入力	前回の値	「日付の入力」で「日だけ」を選択したときに入力できます。 自動的に翌月に変更する条件を入力します。

4.1.2.1. 伝票の設定

伝票の設定

伝票明細の動作

受注伝票で数量が未入力の場合は登録できないようにする
 売上伝票で単価が未入力の場合は登録できないようにする

図 6 伝票の設定画面

- ・ 伝票の設定項目を入力します。

【項目説明】

No	項目名称	内容	値	備考	参照元
伝票明細の動作					
1	受注伝票で数量が未入力の場合は登録できないようにする	前回の値	受注伝票の登録時、数量が未入力の場合、登録できないようにするときにチェックします。		
2	売上伝票で単価が未入力の場合は登録できないようにする	前回の値	売上伝票の登録時、単価が未入力の場合、登録できないようにするときにチェックします。		

4.1.2.2. 見積の設定

見積の設定

見積書のヘッダ情報

納入期日	受注後、一週間以内
納入場所	御社指定場所
支払方法	納入月末日
有効期限	提出後、一ヶ月

見積書のフッタ情報

1段目	納入場所は、ご発注の際にお知らせください。
2段目	お支払いは、お振込にてお願い申し上げます。

図 7 見積の設定画面

- 見積の設定項目を入力します。

【項目説明】

No	項目名称	内容	値	備考	参照元
見積書のヘッダ情報					
1	納入期日	納入期日を入力	前回の値	見積書のヘッダに出力する納入期日を入力します。	
2	納入場所	納入場所を入力	前回の値	見積書のヘッダに出力する納入場所を入力します。	
3	支払方法	支払方法を入力	前回の値	見積書のヘッダに出力する支払方法を入力します。	
4	有効期限	有効期限を入力	前回の値	見積書のヘッダに出力する有効期限を入力します。	
見積書のフッタ情報					
5	1段目	1段目を入力	前回の値	見積書のフッタの1段目に表示する文言を入力し	

ます。

6 2 段目 2 段目を入力

前回の値

見積書のフッタの 2 段目に出力する文言を入力します。

4.1.3. 全体の設定

全体の設定

処理メニュー

メニューのメッセージの内容を自動的に更新する
30 分ごとに表示を更新する

消費税

税率
適用日付
旧税率

締め処理

自社の締日 日 (末日締めの場合は 99 と入力してください)

画像の設定

画像の種別

フォルダの設定

帳票の形式データの格納フォルダ
¥¥win2008¥EcRP_demo¥Layout

サブフォルダ	専用納品書	Nohin
熨斗	Noshi	
取引先ラベル	TorLabel	
商品ラベル	ShoLabel	

画像の格納フォルダ
¥¥win2008¥EcRP_demo¥images¥

ファイルデータの格納フォルダ
¥¥win2008¥EcRP_demo¥FileData

データ連携のプロファイルの格納フォルダ
¥¥win2008¥EcRP¥ProfileEcRP

図 8 全体の設定画面

- ・ 全体の設定項目を入力します。

【項目説明】

No	項目名称	内容	値	備考	参照元
処理メニュー					
1	メニューのメッセージの内容を自動的に更新する		前回の値	処理メニューの下部に表示されるメッセージを自動で更新するときにチェックします。	
2	更新間隔	更新間隔を入力	前回の値	「メニューのメッセージの内容を自動的に更新する」をチェックしたときに入力できます。 メッセージの更新間隔を分単位で入力します。	
消費税					
3	税率	税率を入力	前回の値	適用日付以降の消費税の税率を入力します。	
4	適用日付	適用日付を入力	前回の値	消費税の適用日付を入力します。	
5	旧税率	旧税率を入力	前回の値	適用日付以前の消費税の税率を入力します(適用日付は含まれません)。	
締め処理					
6	自社の締日	自社の締日を入力	前回の値	自社の締日を入力します。	
画像の設定					
7	画像の種別	画像の種別を選択	前回の値	「Jpeg」「GIF」「PNG」「BMP」「Tiff」の中から選択します。	
フォルダの設定					
8	帳票の形式データが登録されているフォルダの表示		前回の値	スタンダロン版をご利用の場合、EcRP をインストールしたフォルダが表示されます。 サーバー版・クライアント版をご利用の場合、各ク	

		ライアントからアクセス可能な共有フォルダが表示されます。
9 画像の格納フォルダの表示	前回の値	スタンドアロン版をご利用の場合、EcRP をインストールしたフォルダが表示されます。 サーバー版・クライアント版をご利用の場合、各クライアントからアクセス可能な共有フォルダが表示されます。
10 ファイルデータの格納フォルダの表示	前回の値	スタンドアロン版をご利用の場合、EcRP をインストールしたフォルダが表示されます。 サーバー版・クライアント版をご利用の場合、各クライアントからアクセス可能な共有フォルダが表示されます。
11 プロファイルの格納フォルダの表示	前回の値	スタンドアロン版をご利用の場合、EcRP をインストールしたフォルダが表示されます。 サーバー版・クライアント版をご利用の場合、各クライアントからアクセス可能な共有フォルダが表示されます。

4.1.3.1. 利用企業の設定

利用企業の設定

自社	000000	… SOOP 株式会社
納入先	…	
納入場所	…	

図 9 利用企業の設定画面

- 利用企業の設定項目を入力します。

【項目説明】

No	項目名称	内容	値	備考	参照元
1	自社	自社の取引先コードを入力	前回の値	取引先台帳に登録した自社の取引先コードを指定します。	取引先台帳
2	納入先	自社の納入先コードを入力	前回の値	納入先台帳に登録した自社の納入先コードを指定します。	納入先台帳
3	納入場所	自社の納入場所コードを入力	前回の値	納入場所台帳に登録した自社の納入場所コードを指定します。	納入場所台帳

4.1.3.2. コードの初期設定

コードの初期設定		
コードの初期設定		
<input checked="" type="checkbox"/> コードの初期設定を編集する(E)		
商品関連	属性	桁数
商品コード	文字	14
付属コード	文字	14
材料コード	文字	14
商品分類コード	数字	6
単位コード	数字	2
訂正事由コード	数字	4
荷姿コード	数字	4
カラーコード	数字	4
食品区分コード	数字	4
ラベル区分コード	数字	4
熨斗種類コード	数字	4
社内管理	属性	桁数
部門コード	数字	4
ユーザーコード	数字	4
業種区分コード	数字	4
業種コード	数字	4
地区コード	数字	4
商談区分コード	数字	4
印刷用自社コード	数字	2
出納区分コード	数字	2
贈答品区分コード	数字	4
熨斗文言コード	数字	4
職種コード	数字	4
キャンペーンコード	数字	4
取引先関連	属性	桁数
取引先コード	文字	6
納入先コード	文字	4
納入場所コード	文字	8
相手先担当者コード	数字	4
配送関連	属性	桁数
配送地区コード	数字	4
配送方法コード	文字	2
納入時刻コード	数字	2
配送決済コード	文字	4
配送便種コード	文字	4
荷主コード	文字	20

※ご注意

コードの初期設定は、システムに詳しい方だけが設定してください。
不用意に変更するとシステムが正常に動作しないことがあります。
すでにデータを登録されているときは、設定を変更できません。

編集内容を有効にするには、EcRPの再起動が必要です。

図 10 コードの初期設定画面

- 現在の属性や桁数が表示されますので、コードの初期設定を確認できます。
- 初期設定することが可能なコードとデフォルト値は下記の通りです。

商品関連： 商品コード：文字 14 桁、付属コード：文字 14 桁、材料コード：文字 14 桁、商品分類コード：数字 6 桁、単位コード：数字 2 桁

訂正事由コード：数字 4 桁、荷姿コード：数字 4 桁、カラーコード：数字 4 桁、食品区分コード：数字 4 桁

ラベル区分コード：数字 4 桁、熨斗種類コード：数字 4 桁

取引先関連： 取引先コード：文字 6 桁、納入先コード：文字 4 桁、納入場所コード：文字 8 桁、相手先担当者コード：数字 4 桁

配送関連： 配送地区コード：数字 4 桁、配送方法コード：文字 2 桁、納入時刻コード：数字 2 桁、配送決済コード：文字 4 桁

配送便種コード：文字 4 桁、荷主コード：文字 20 桁

- 社内関連： 部門コード：数字 4 桁、ユーザーコード：数字 4 桁、業種区分コード：数字 4 桁、業種コード：数字 4 桁
 地区コード：数字 4 桁、商談区分コード：数字 4 桁、印刷用自社コード：数字 2 桁、出納区分コード：数字 2 桁
 贈答品区分コード：数字 4 桁、熨斗文言コード：数字 4 桁、職種コード：数字 4 桁、キャンペーンコード：数字 4 桁
- すでにデータが登録されている台帳に関するコードの初期設定は変更できません。

【項目説明】

No	項目名称	内容	値	備考	参照元
1	コードの初期設定を編集する			各項目の初期設定を変更するときにチェックします。	
2	属性	各項目の属性を選択	前回の値	「文字」「数字」「数値」の中から選択します。	
3	桁数	各項目の桁数を入力	前回の値	各項目の桁数を入力します。(文字の場合は 1 から 20 まで、数字の場合は 1 から 9 まで、数値の場合は 1 から 9 までが入力可能です)	
4	初期値	各項目の初期値を入力	前回の値	※不要	
5	増分	各項目の増分を入力	前回の値	※不要	
6	連番の上限	各項目の連番の上限を入力	前回の値	※不要	

4.1.3.3. 取引先の設定



図 11 取引先の設定画面

- 取引先の設定項目を入力します。

【項目説明】

No	項目名称	内容	値	備考	参照元
取引先台帳の設定					
1	郵便番号で住所を自動的に入力する	前回の値	取引先台帳の登録時、郵便番号で住所を自動的に入力するときにチェックします。		
2	住所に都道府県名を付加する	前回の値	取引先台帳の登録時、住所に都道府県名を付加するときにチェックします。		

4.1.3.4. 伝票の設定

伝票の設定

伝票処理の設定

(表題部) 伝票日付 コンピュータの日付(当日) 前回処理した伝票の日付
 伝票番号 全体の桁数 9桁に収まるように設定してください。
 接頭語 ① ② ③
 順番 1 連番の管理 全体 ユーザーを含める
 2 連番の種別 すべて 日付を含めるなし
 3 番号の範囲 1 ~ 999999 増分 1
 接尾語 ① ② ③
 入金支払の番号の範囲 1 ~ 999999 増分 1
 伝票番号の変更を許可する

(明細部) 小数部の桁数 数量 2桁 単価 2桁
 受注伝票で一括値引と摘要明細を許可する
 売上伝票で単価が入力されていない明細をチェックする
 伝票登録時に納入場所をチェックする

引当の設定
 引き当たした伝票でも単価を再計算する

図 12 伝票の設定画面

- ・ 伝票の設定項目を入力します。

【項目説明】

No	項目名称	内容	値	備考	参照元
伝票処理の設定					
1	伝票日付	伝票日付の初期値を選択	前回の値	「コンピュータの日付(当日)」「前回処理した伝票の日付」の中から選択します。	
2	接頭語	伝票番号の接頭語を入力	前回の値	伝票番号の接頭語を入力します。	
3	順番	順番を選択	前回の値	「1」「2」「3」の中から選択します。	
4	連番の管理	連番の管理を選択		「全体」「ユーザーごと」の中から選択します。	
5	ユーザーを含める			連番にユーザーコードを含めるときにチェックします。	
6	連番の種別	連番の種別を選択		「すべて」「年ごと」「月ごと」「日ごと」の中から選択します。	
7	日付を含める			連番に日付を含めるときにチェックします。	
8	番号の範囲	番号の範囲と増分を入力 と増分		番号の範囲と増分を入力します。	
9	接尾語	接尾語を入力		伝票番号の接尾語を入力します。	
10	入金支払の 番号の範囲	入金支払の番号の範囲を入力 番号の範囲		入金支払の番号の範囲と増分を入力します。	
11	伝票番号の変更を許可する			伝票番号の編集を許可するときにチェックします。	
12	小数部の桁 数(数量)	数量の小数部の桁数を選択		「なし」「1桁」「2桁」「3桁」の中から選択します。	
13	小数部の桁 数(単価)	単価の小数部の桁数を選択		「なし」「1桁」「2桁」「3桁」の中から選択します。	

14 受注伝票で一括値引と摘要明細を許可する	受注伝票の登録時、一括値引と摘要明細を許可するときにチェックします。
15 売上伝票で単価が入力されていない明細をチェックする	売上伝票の登録時、単価が入力されていない明細をチェックするときにチェックします。
16 伝票登録時に納入場所をチェックする	伝票の登録時、納入場所をチェックするときにチェックします。
引き当てる設定	
17 引き当てした伝票でも単価を再計算する	伝票の引当登録時、単価を再計算するときにチェックします。

4.1.3.5. メールの設定

メールの設定

メールアカウントの設定

メール送信者名
送信者のアドレス

メールアカウント名
パスワード

メールサーバーの設定

送信サーバー
受信サーバー

詳細な設定

SMTPポート番号 POPポート番号 同期通信のタイムアウト	25 110 100 秒	<input type="checkbox"/> POP before SMTPをおこなう <input type="checkbox"/> SMTP認証をおこなう <input type="checkbox"/> 非同期通信をおこなう <input type="checkbox"/> メール送信時のエラーを表示する
--------------------------------------	--------------------	--

図 13 メールの設定画面

- EcRP が自動的にメールを送信するときに必要な設定項目を入力します。

【項目説明】

No	項目名称	内容	値	備考	参照元
メールアカウントの設定					
1	メール送信者名	メール送信者名を入力	前回の値	自動メールの送信者名を入力します。	
2	送信者のアドレス	送信者のアドレスを入力	前回の値	自動メールの送信者アドレスを入力します。	
3	メールアカウント名	メールアカウント名を入力	前回の値	メールサーバーに登録されているメールアカウント名を入力します。	
4	パスワード	パスワードを入力	前回の値	メールサーバーに登録されているパスワードを入力します。	
メールサーバーの設定					
5	送信サーバー	送信サーバーを入力	前回の値	自動メールで使用する送信サーバーの名称を入力します。	
6	受信サーバー	受信サーバーを入力	前回の値	自動メールで使用する受信サーバーの名称を入力します。	
詳細な設定					
7	SMTP ポート番号	SMTP ポート番号を入力	前回の値	自動メールで使用する送信サーバーの SMTP ポート番号を入力します。	
8	POP ポート番号	POP ポート番号を入力	前回の値	自動メールで使用する受信サーバーの POP ポート番号を入力します。	
9	同期通信のタイムアウト	同期通信のタイムアウト秒数を入力	前回の値	メールサーバーとの同期通信タイムアウトの秒数を入力します。	
10	POP before SMTP をおこなう		前回の値	メールサーバーとの通信で POP before SMTP をおこなうときにチェックします。	

11 SMTP 認証をおこなう	前回の値	メールサーバーとの通信で SMTP 認証をおこなうときにチェックします。
12 非同期通信をおこなう	前回の値	メールサーバーと非同期通信をおこなうときにチェックします。
13 メール送信時のエラーを表示する	前回の値	メール送信時のエラーを表示するときにチェックします。

4.1.3.6. セキュリティの設定

セキュリティの設定

ログオン禁止の設定

ログオンが禁止されている時間帯にログオンしようとした場合

ログオンを禁止する
 ログオンを許可する
 ユーザーに警告メッセージを表示する
 管理者にメールを送信する

図 14 セキュリティの設定画面

- セキュリティの設定項目を入力します。

【項目説明】

No	項目名称	内容	値	備考	参照元
ログオン禁止の設定					
1	ログオンが禁止されている時間帯にログオンしようとしました場合	前回の値	「ログオンを禁止する」「ログオンを許可する」の中から選択します。		
2	ユーザーに警告メッセージを表示する	前回の値	「ログオンが禁止されている時間帯にログオンしようとしました場合」が「ログオンを許可する」のときに設定できます。 自動メールの送信者アドレスを入力します。		

3 管理者にメールを送信する

前回の値

「ログオンが禁止されている時間帯にログオンしようとした場合」が「ログオンを許可する」のときに設定できます。
メールサーバーに登録されているメールアカウント名を入力します。

4.1.3.7. パスワードの設定

パスワードの設定

データを更新する時のパスワード

パスワード (英数6文字以内で設定)			
取引先台帳の削除	*****	データの保管	*****
商品台帳の削除	*****	データの復元	*****
伝票の削除	*****	データの一括削除	*****
締め処理	*****		
締め後の編集	*****		

図 15 パスワードの設定画面

- ・ パスワードの設定項目を入力します。

【項目説明】

No	項目名称	内容	値	備考	参照元
データを更新する時のパスワード					
1	取引先台帳の削除	取引先台帳の削除時のパスワードを入力	前回の値	取引先台帳の削除に必要なパスワードを入力します。(英数字 6 文字以内)	
2	商品台帳の削除	商品台帳の削除時のパスワードを入力	前回の値	商品台帳の削除に必要なパスワードを入力します。(英数字 6 文字以内)	
3	伝票の削除	伝票の削除時のパスワードを入力	前回の値	伝票の削除に必要なパスワードを入力します。(英数字 6 文字以内)	

4	締め処理	締め処理の実行時のパスワードを入力	前回の値	締め処理の実行に必要なパスワードを入力します。(英数字 6 文字以内)
5	締め後の編集	締め後の伝票編集時のパスワードを入力	前回の値	締め処理後の伝票編集に必要なパスワードを入力します。(英数字 6 文字以内)
6	データの保管	データの保管の実行時のパスワードを入力	前回の値	データの保管の実行に必要なパスワードを入力します。(英数字 6 文字以内)
7	データの復元	データの復元の実行時のパスワードを入力	前回の値	データの復元の実行に必要なパスワードを入力します。(英数字 6 文字以内)
8	データの一括削除	データの一括削除の実行時のパスワードを入力	前回の値	データの一括削除の実行に必要なパスワードを入力します。(英数字 6 文字以内)

図表番号

図 1 環境設定画面	4-2
図 2 環境設定のボタン	4-3
図 3 再起動確認	4-3
図 4 端末の設定画面	4-4
図 5 ユーザーごとの設定画面	4-5
図 6 伝票の設定画面	4-6
図 7 見積の設定画面	4-7
図 8 全体の設定画面	4-8
図 9 利用企業の設定画面	4-11
図 10 コードの初期設定画面	4-12
図 11 取引先の設定画面	4-13
図 12 伝票の設定画面	4-14
図 13 メールの設定画面	4-16
図 14 セキュリティの設定画面	4-18
図 15 パスワードの設定画面	4-19